

## 第 14 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会事前アンケート

## 【調査目的】

第 3 期の「がん対策基本計画」で示されている「相談支援及び情報提供」の個別目標に関する全国のがん相談支援センターの現状を明らかにするため

## 【対象】

国指定のがん診療連携拠点病院等、小児がん拠点病院（2019 年度指定の全施設 442 施設）

## 【調査方法】

情報提供・相談支援部会委員及び国指定のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターメーリングリストにて、web アンケートへの協力を依頼し、2020 年 3 月 17 日～4 月 24 日にかけてアンケートを実施した。

## 【調査の集計】

2020 年 4 月 24 日までに入力・回答された 184 施設の回答

（国指定の拠点病院でない施設は集計対象から除く）

- ▶ 回収率：41.6%

## 【実施主体】

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

情報提供・相談支援部会事務局

（国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部内）

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

E-mail：Joho\_Soudan\_Jimkyoku@mi.res.ncc.go.jp

TEL：03-3542-2511（内線 1616）

## 【目次】

1. 回答施設概要 .....	3
2. 小児がん患者からの相談対応の場所について .....	4
3. 利用している情報について .....	5
4. 相談記録とその活用について .....	10
5. 継続的な研修への参加状況について .....	13
6. ピアサポートについて .....	15

## 【回答結果】

## 1. 回答施設概要

## 1) がん診療連携拠点病院指定状況別（複数回答）回答率（N=185 施設）

	全施設数	回答施設	回答率
1. 都道府県がん診療連携拠点病院（国立がん研究センターを含む）	53	49	92.5%
2. 地域がん診療連携拠点病院（高度型、特定領域を含む）	346	128	37.0%
3. 地域がん診療病院	37	4	10.8%
4. 小児がん拠点病院	15	10	66.7%

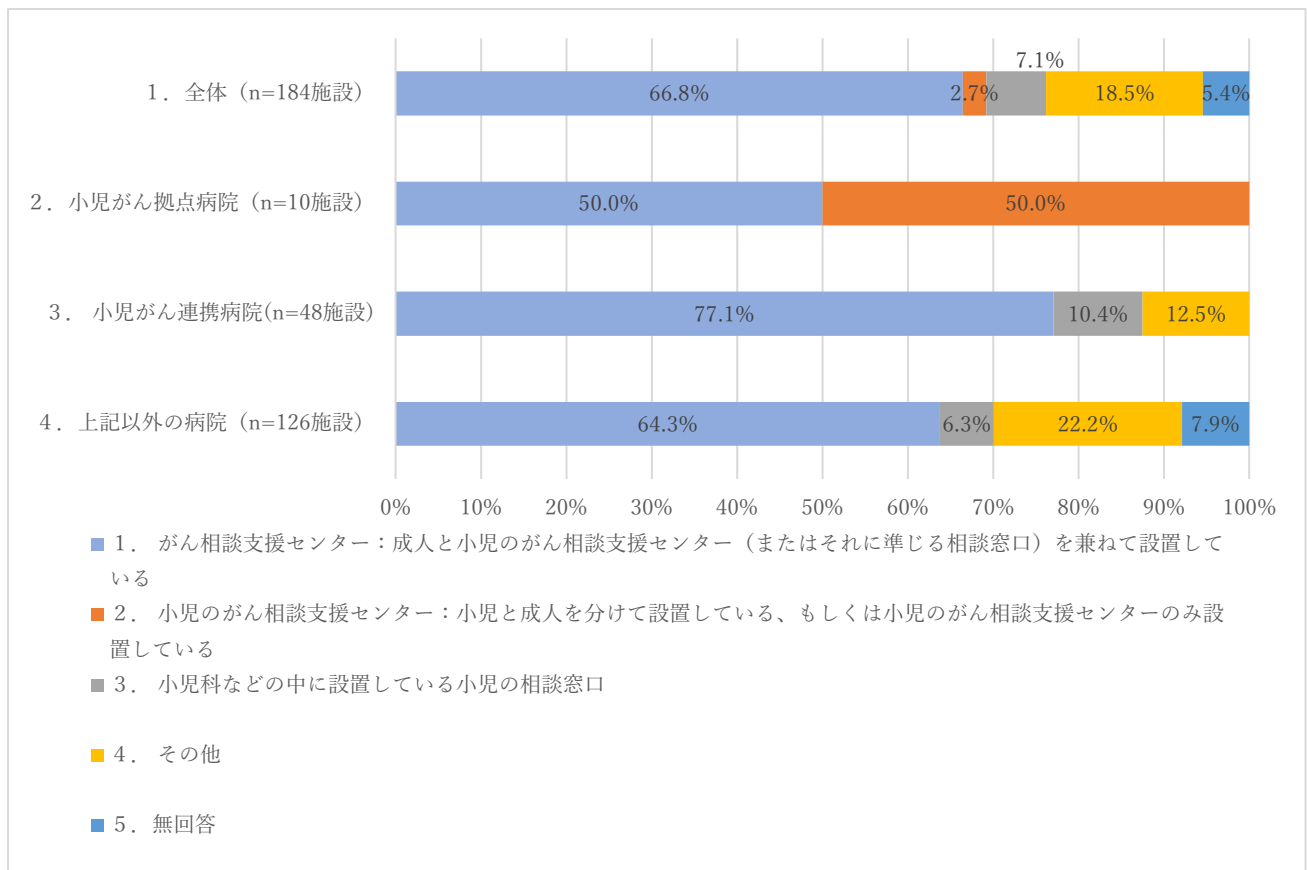
## 2) 小児がん拠点病院、小児がん連携病院の施設指定状況

	1. 小児がん拠点 病院	2. 小児がん連 携病院	3. 該当なし
1. 都道府県がん診療連携拠点病院（n=49 施設）	6	22	21
2. 地域がん診療連携拠点病院（高度型、特定領域を含む） （n=128 施設）	1	27	99
3. 地域がん診療病院（n=4 施設）	0	0	4
4. 上記以外の小児がん拠点病院（n=3 施設）	3	0	0

## 3) がんゲノム医療における各施設の施設指定状況（N=184 施設）

	1. がんゲノム 医療中核病院	2. がんゲノム 医療拠点病院	3. がんゲノム 医療連携病院	4. 該当なし
1. 都道府県がん診療連携拠点病院（n=49 施設）	6	17	25	1
2. 地域がん診療連携拠点病院（高度型、特定領域を含む） （n=128 施設）	2	6	49	71
3. 地域がん診療病院（n=4 施設）	0	0	0	4
4. 上記以外の小児がん拠点病院（n=3 施設）	0	0	3	0

## 2. 小児がん患者からの相談対応の場所について



## その他の回答

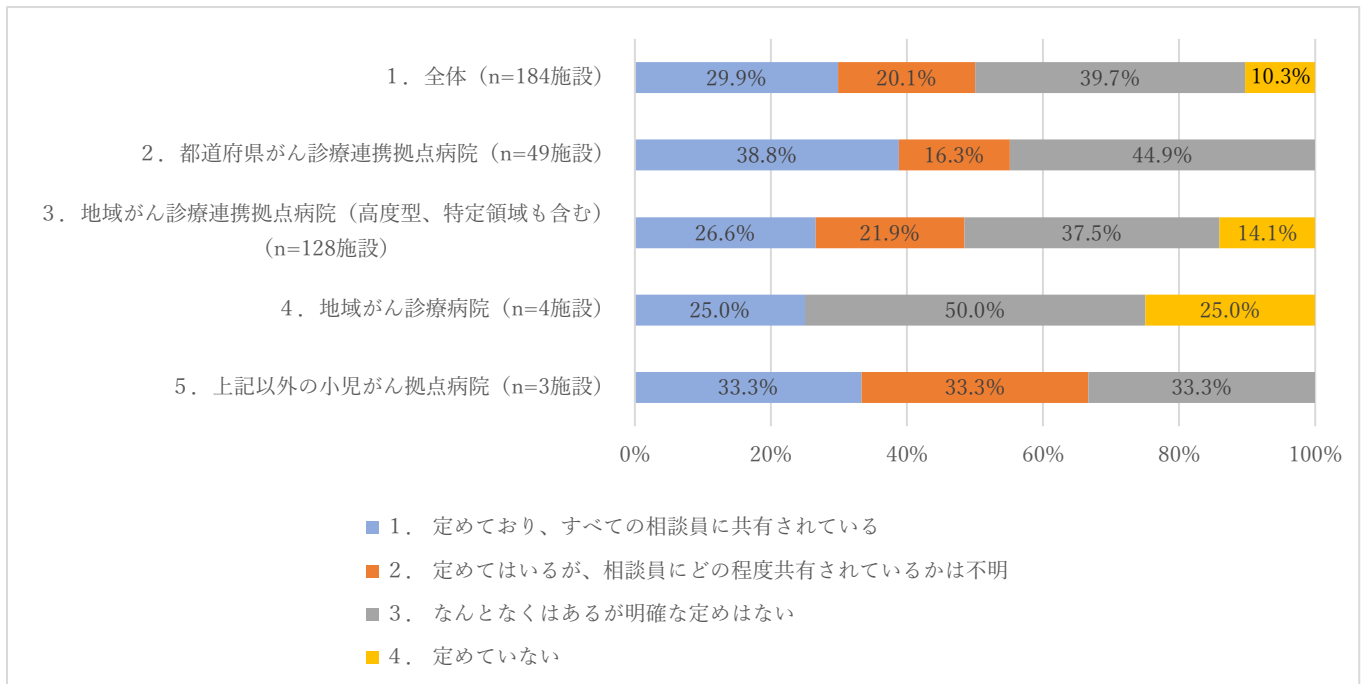
- ・小児がん患者からの相談はほとんどなく、小児科病棟や外来で対応している
- ・がん相談支援センターで相談は受けるが、県内の小児がん拠点病院に連携する
- ・院内については小児科で対応し、院外についてはがん相談支援センターで対応している。小児がん専門相談員研修受講者を置き、一般的な情報提供や関連部署への連携を行っている
- ・小児がん患者の対応はしていない

## 3. 利用している情報について

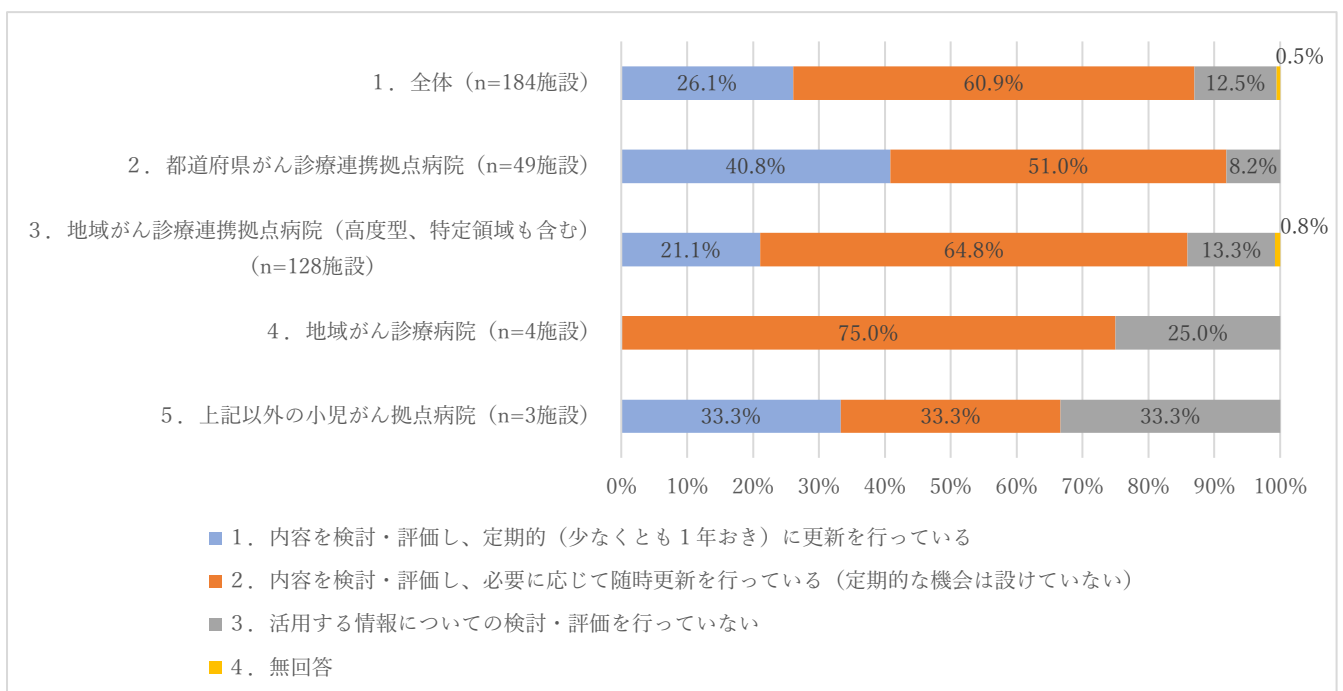
※以下【数字】は「がん相談支援センターPDCA 実施状況チェックリスト 2019 年作成版（全国部会作成版）」に準じています。

1) 貴センターでは、情報提供や相談支援に活用する情報や資料の範囲について定めていますか。

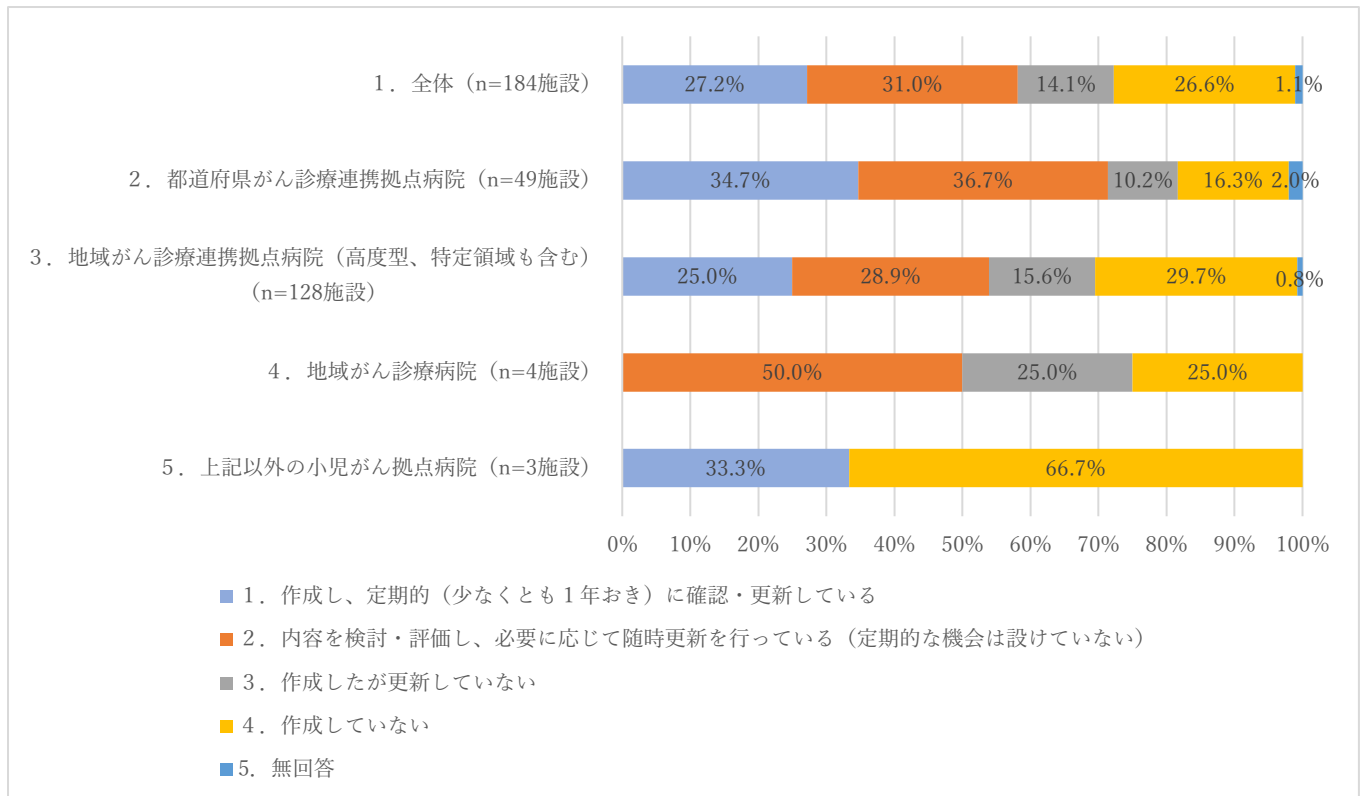
【34a 一部】



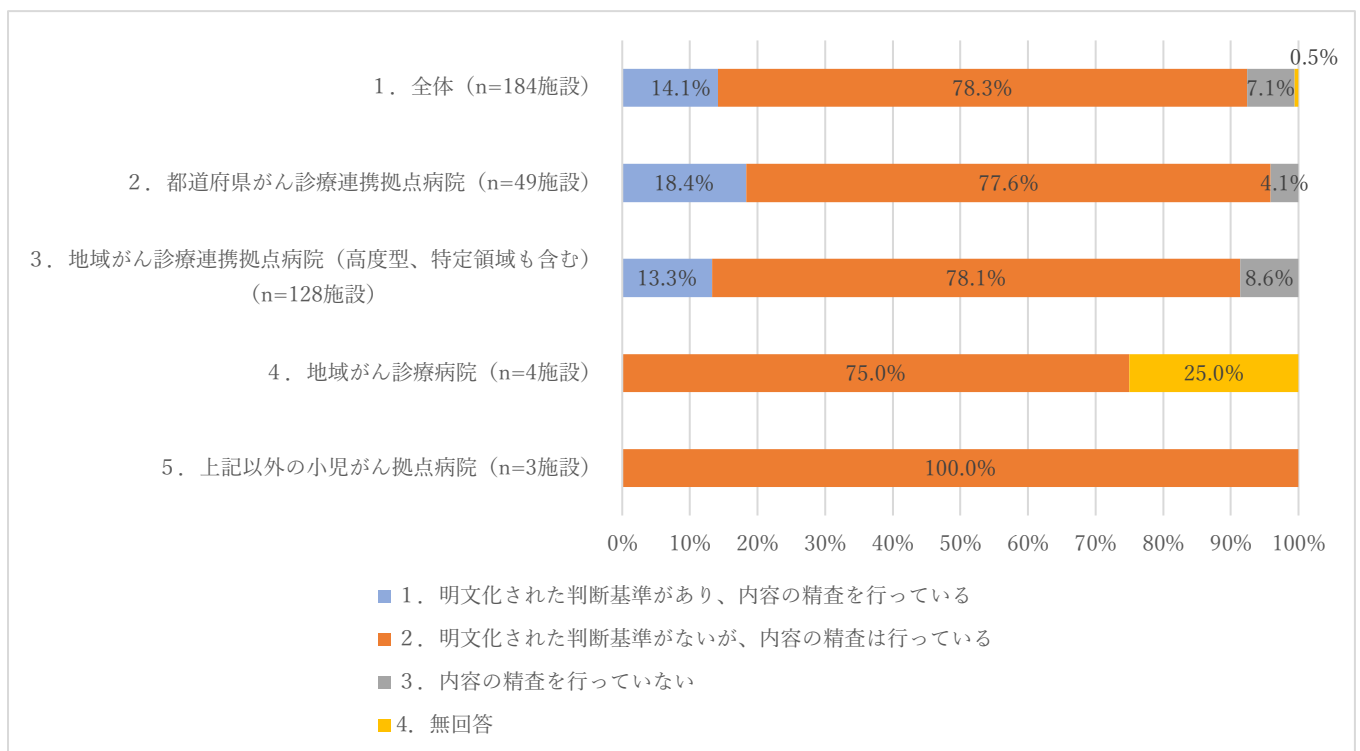
2) 貴センター内で情報提供・相談支援に活用する情報や資料について、情報の整備・更新を行っていますか。【34b 一部】



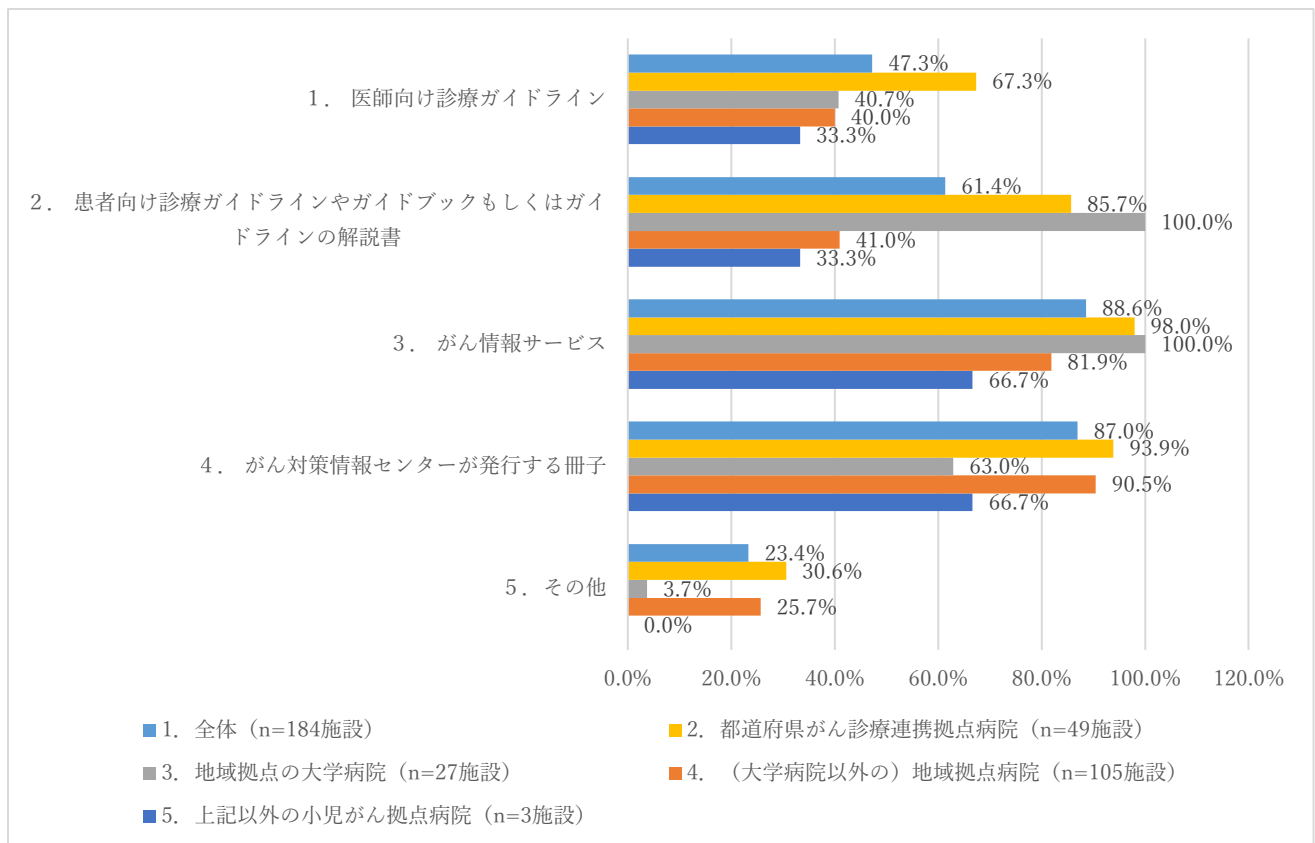
3) 貴センターでは、がん相談部門のマニュアルや相談対応の Q&A を作成し、定期的に更新していますか【36】



4) 貴センターではがんに関する図書、小冊子やリーフレットについて正確な情報が掲載されているか確認していますか。【44 準拠】



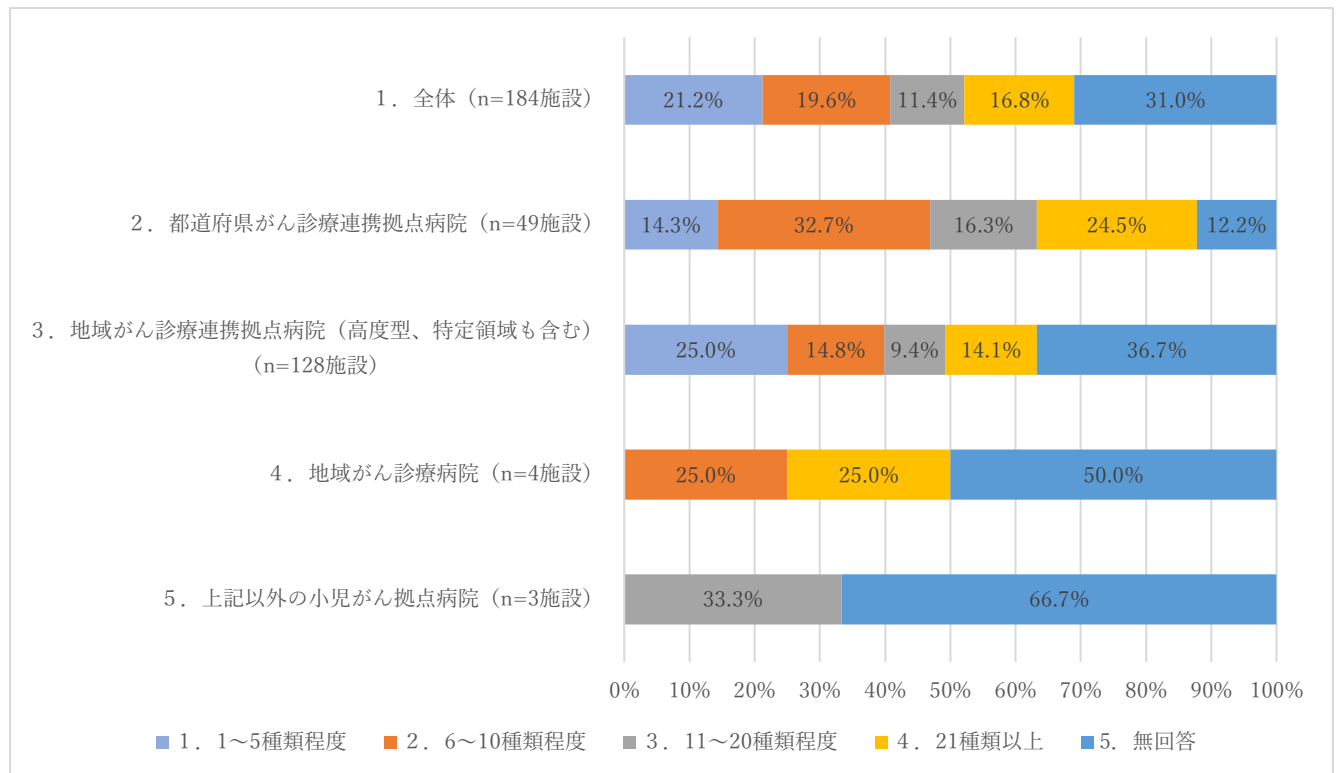
5) 貴センターで情報提供・相談支援に活用している資料は以下のうちどれですか。(複数回答)



#### その他の回答

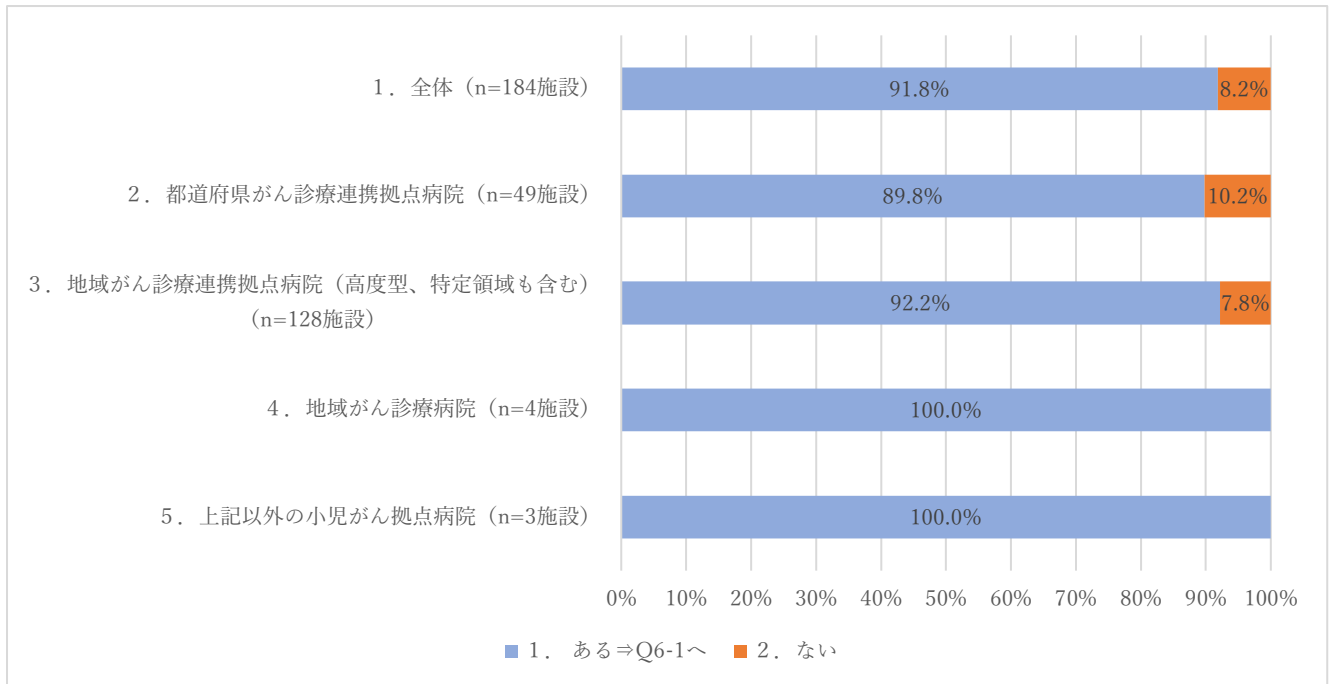
- ・ キャンサーネットジャパンの冊子
- ・ 県内で作成した療養冊子等
- ・ 製薬会社やがん研究復興財団が作成している資料

5) -1 5) にて「1. もしくは 2.」と回答した施設に対して、書籍（情報）の最新版で、相談時に利用できるようになっているガイドライン数について教えてください。

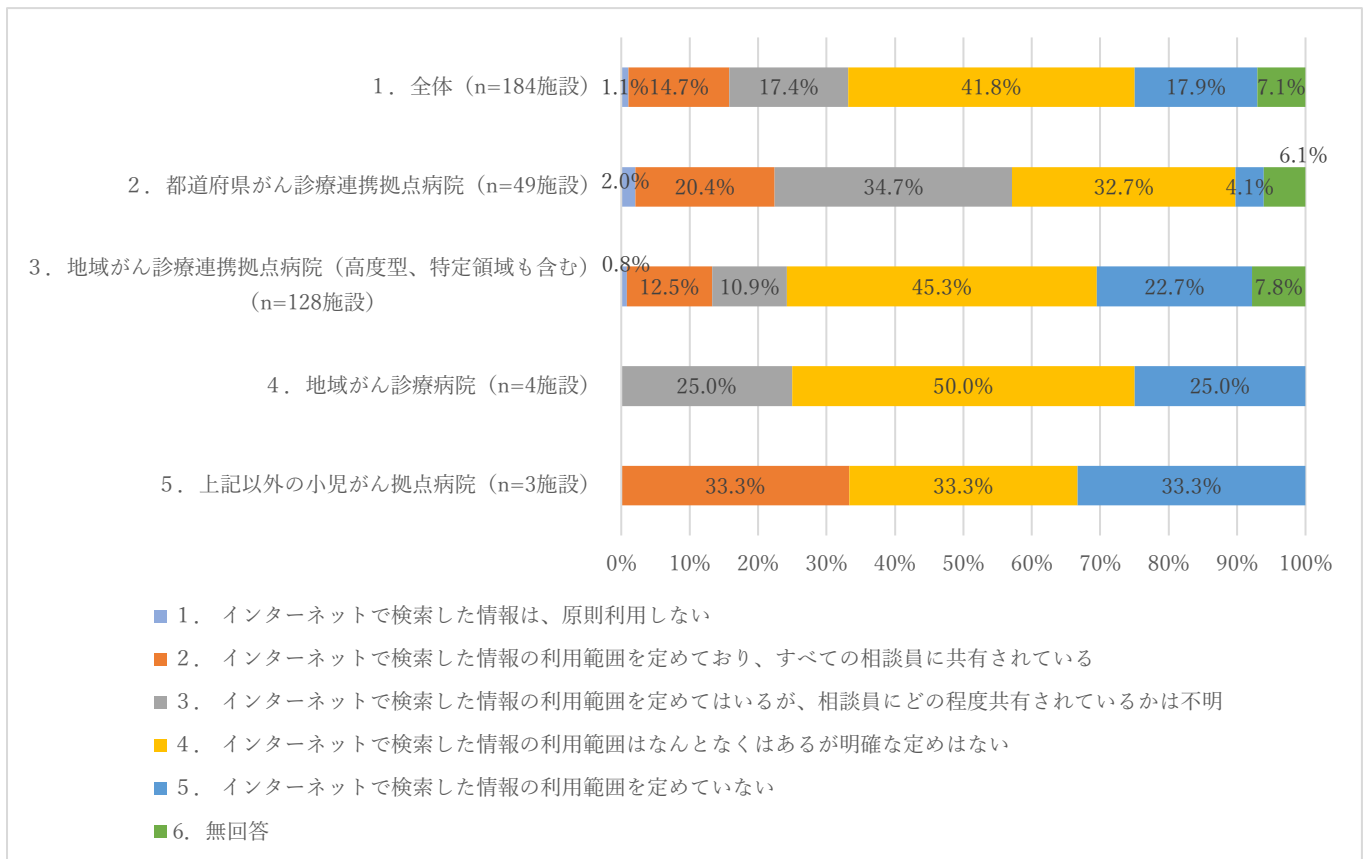




6) 相談対応時にパソコンやタブレットなどを使って、インターネットで情報を検索できる環境はありますか。



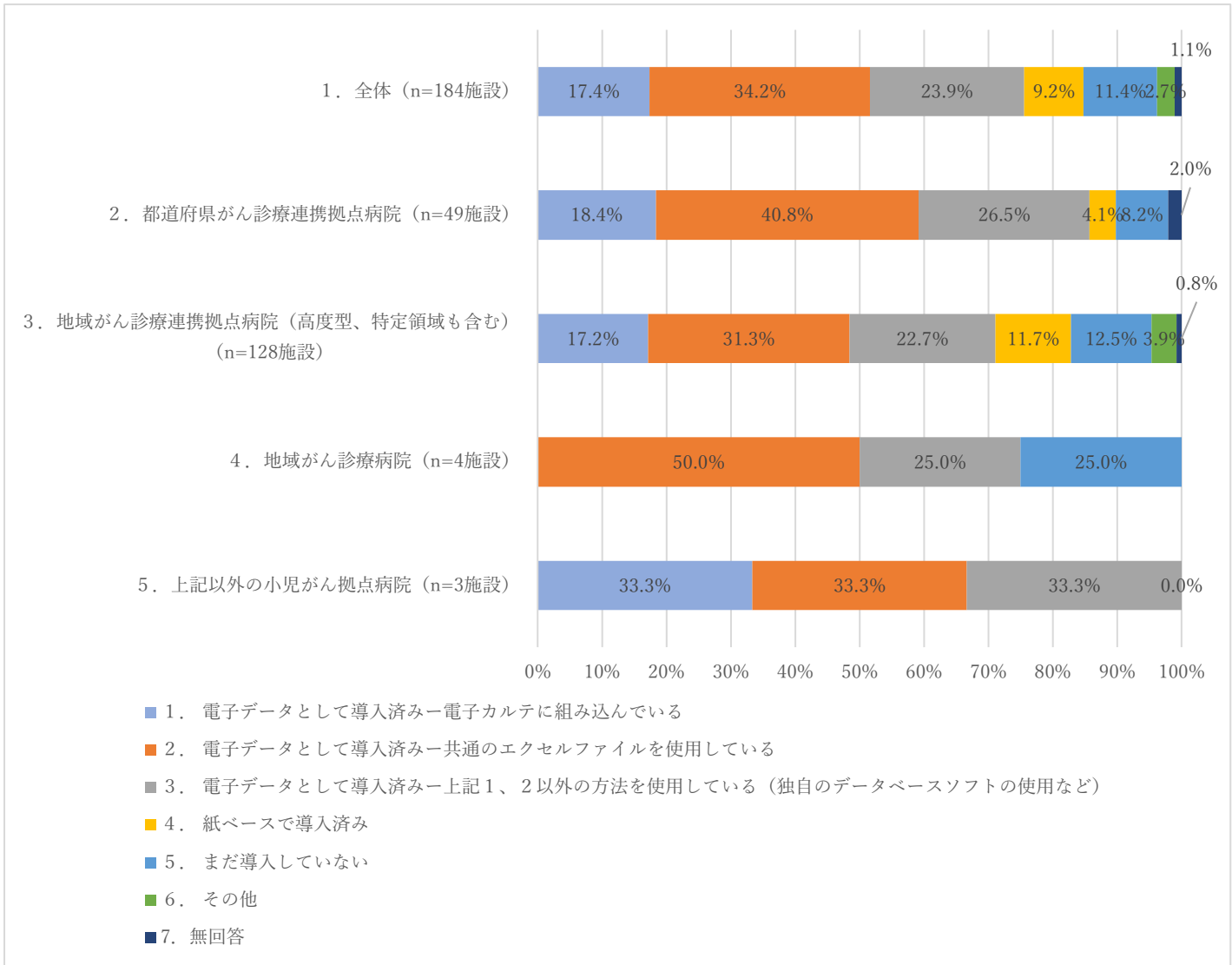
6) -1 6) で「1. ある」と回答した方に対して、貴センターでは、相談にあたって利用するインターネットで検索した情報の提供範囲について何らか定めていますか。



## 4. 相談記録とその活用について

1) 貴センターでは、相談件数の記録のために「相談記録のための基本方式」を導入していますか。

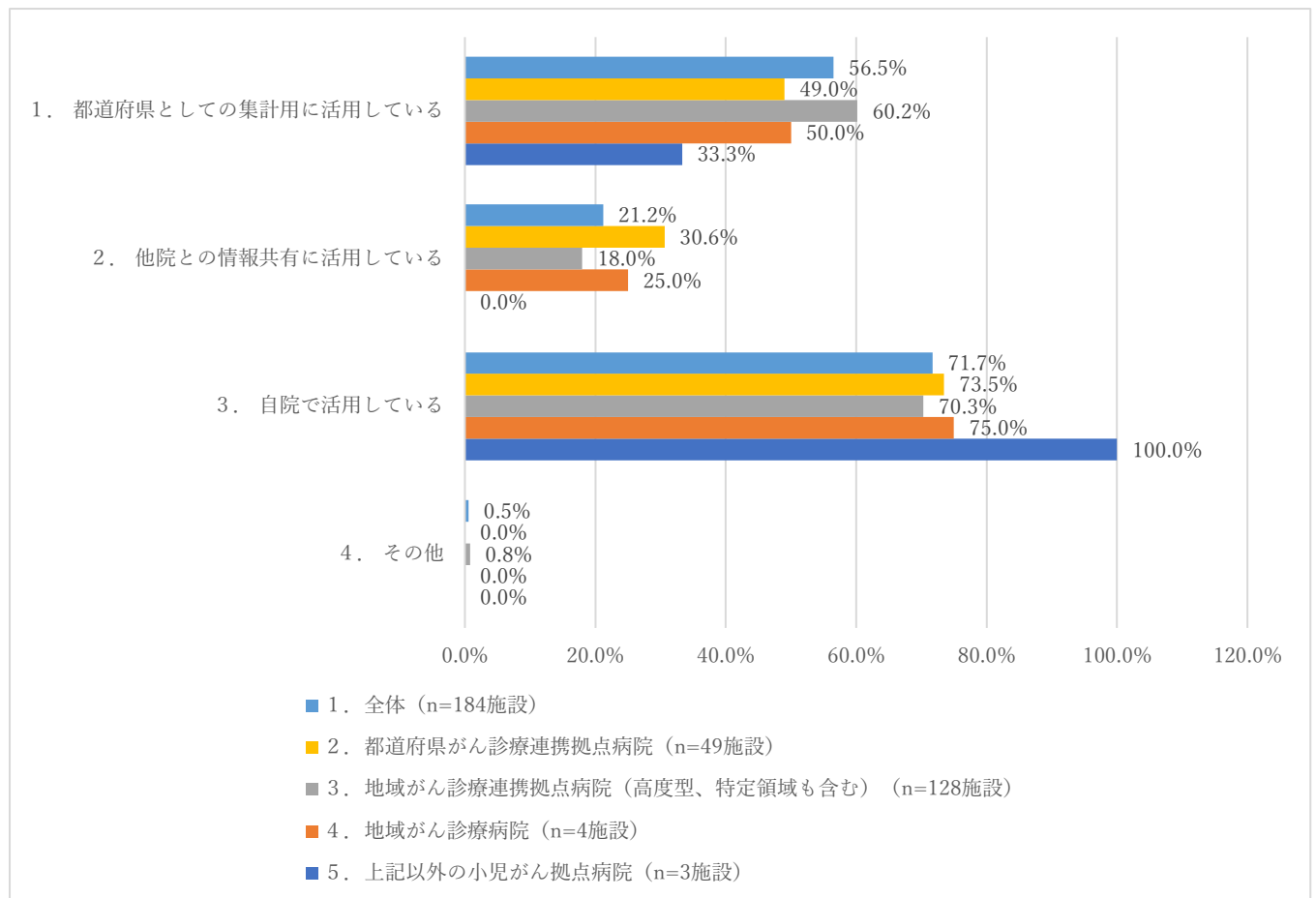
## 【26 準拠】



## その他の回答

- ・電子カルテではなく別途集計用 PC で導入運用
- ・国から示されている相談件数の取り方では集積できないため独自に作成している。（こちらから相談に伺っている事例もあるため）
- ・相談記録のための基本方式と当院独自のものと両方活用している

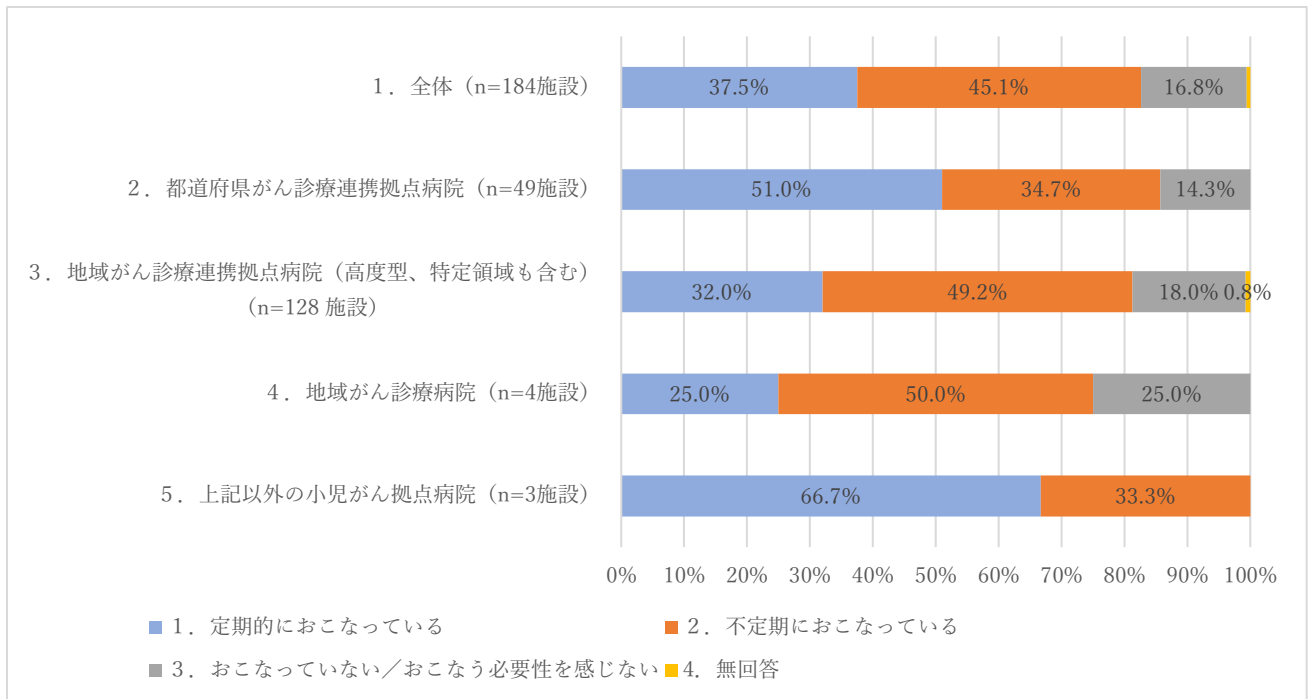
2) 現在貴センターでは集積された相談記録のデータを都道府県としての集計用や他院との情報共有に活用していますか。(複数回答)



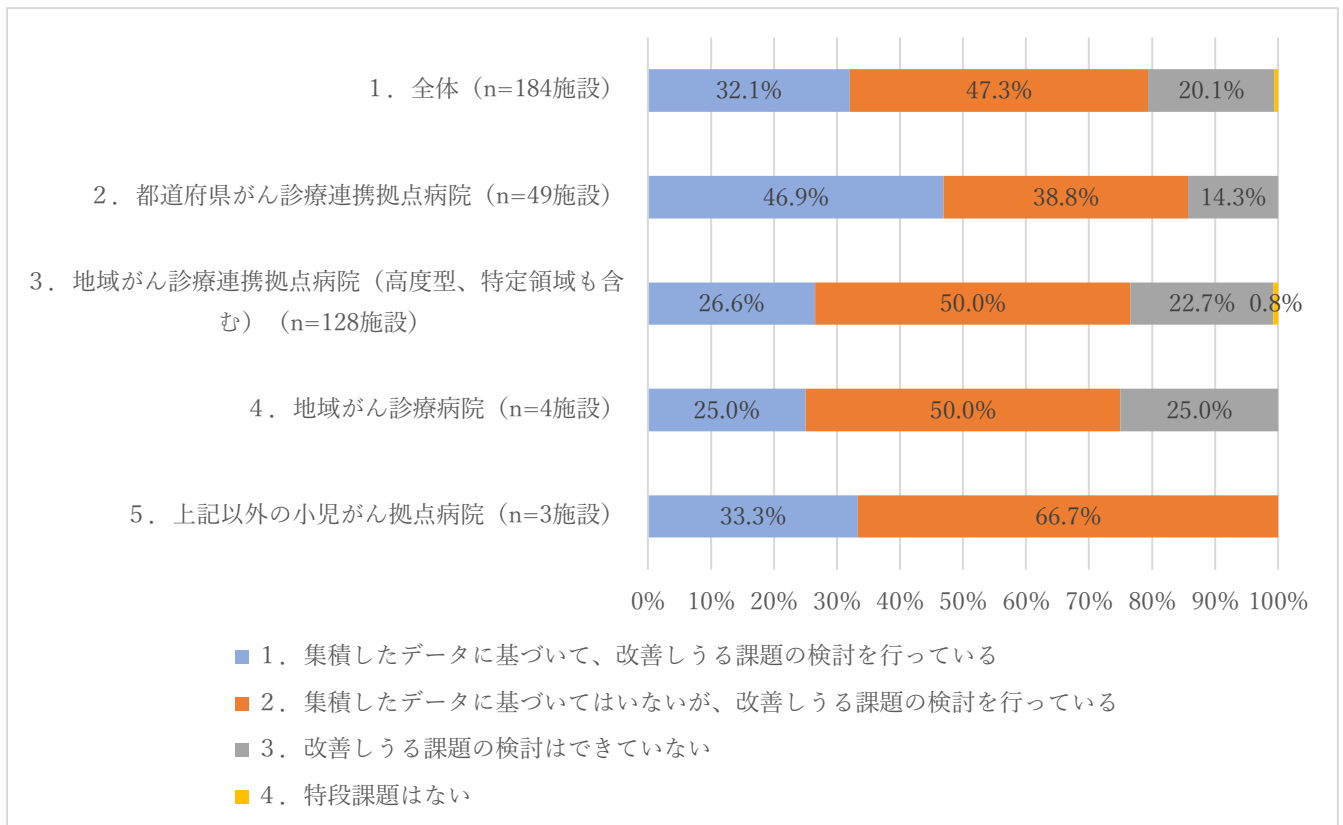
その他の回答

・厚生労働省のモデル事業で活用している

3) 貴センターでは、相談者からの相談内容や対応から、相談や情報ニーズの傾向分析を定期的におこなっていますか。【27a】

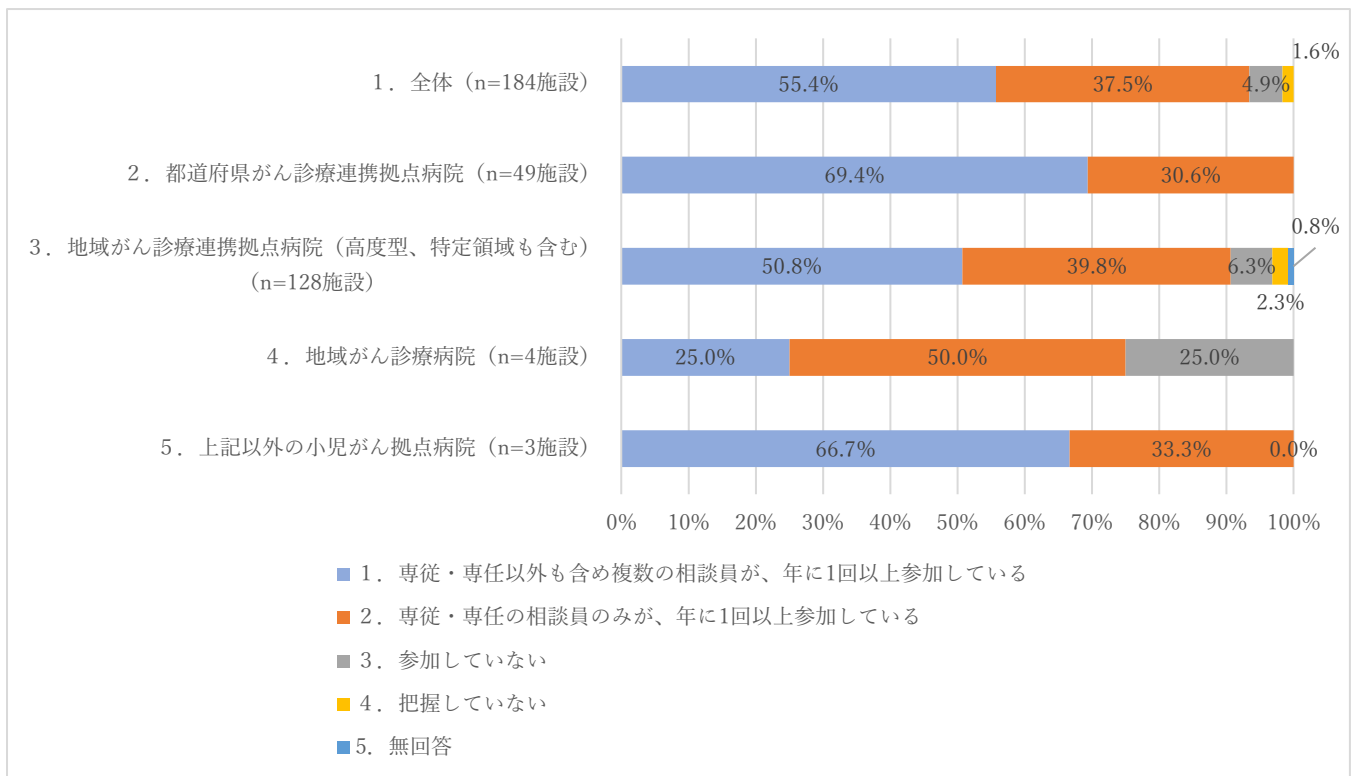


4) 貴センターでは、相談者からの相談内容や対応の分析から、改善できる課題について検討していますか【27b】

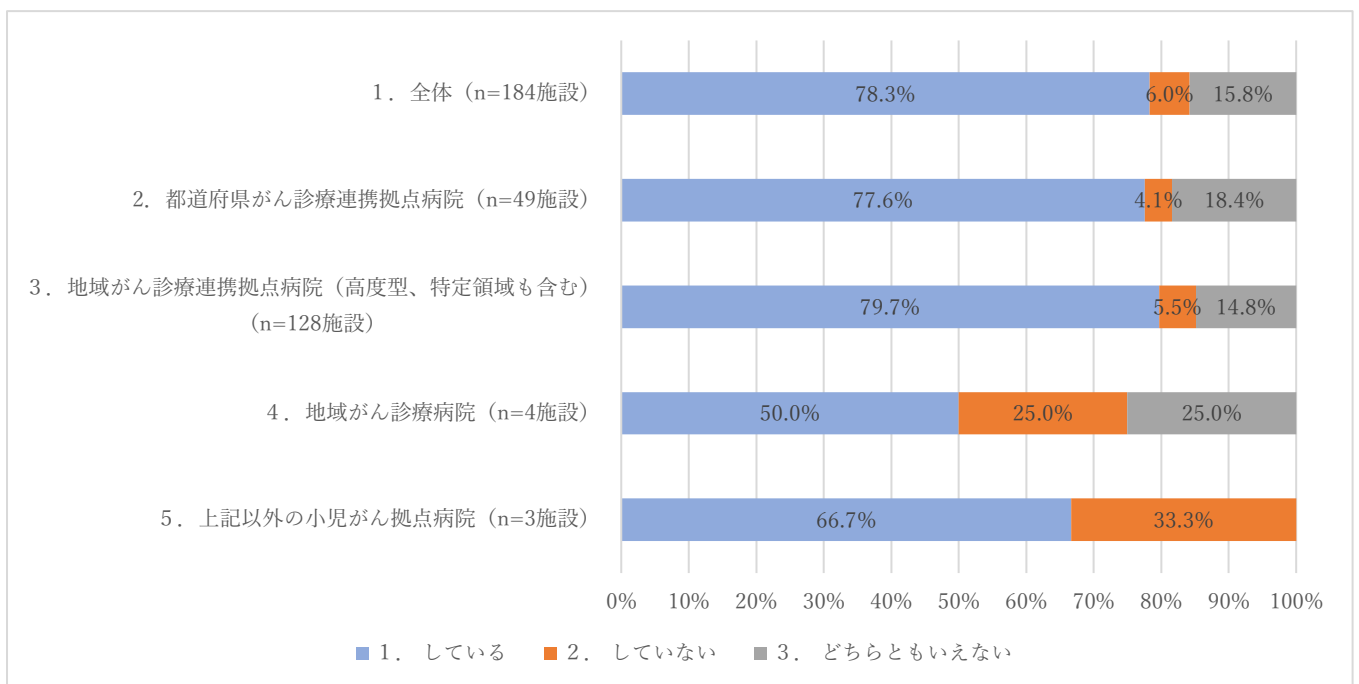


## 5. 継続的な研修への参加状況について

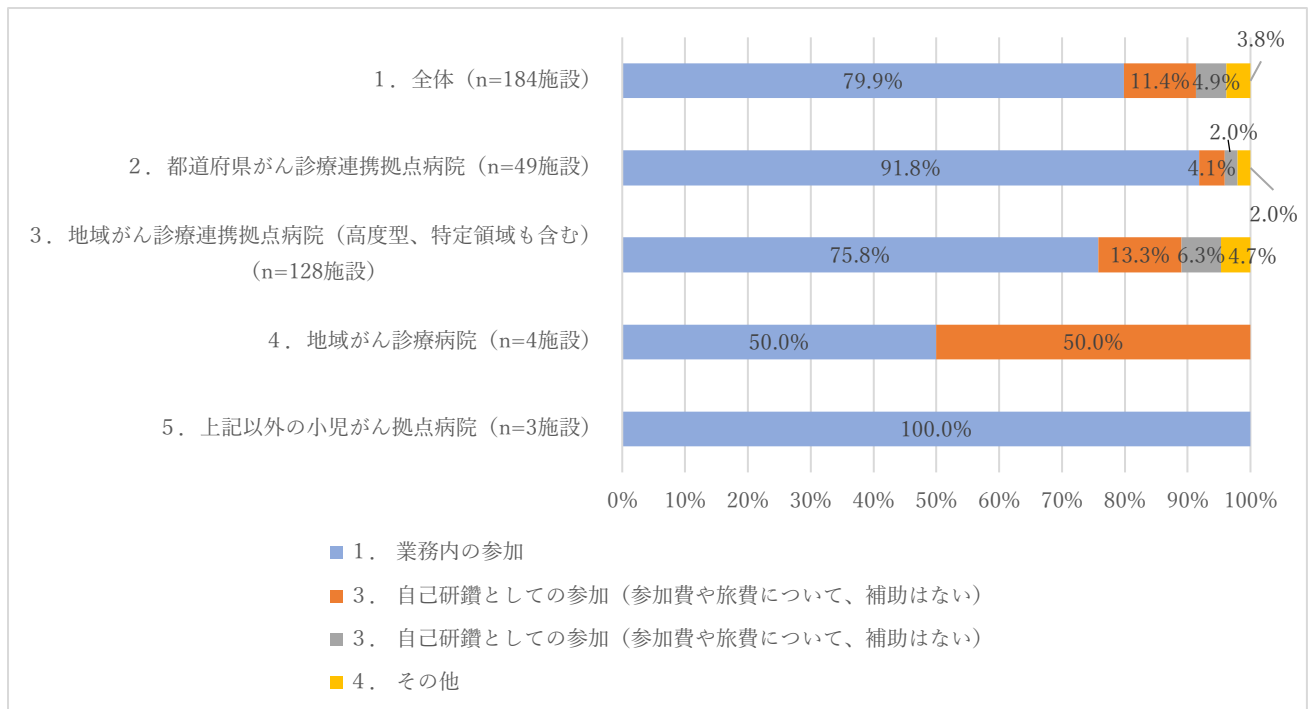
1) 貴センターの相談員は、がん相談支援センターに新たに求められている事項や業務に関連する研修に参加していますか。【18】



2) 病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、相談員に対して、研修に参加を促す働きかけや調整をしていますか。



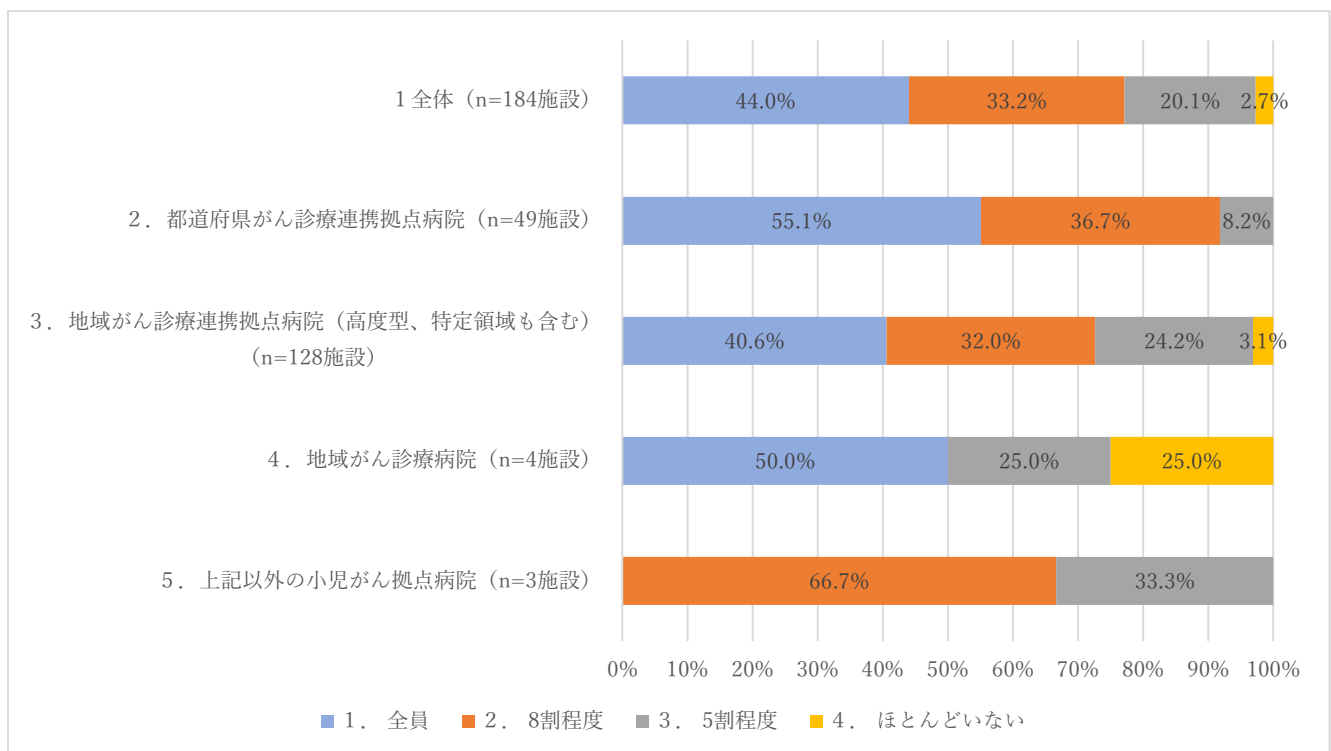
3) 病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、研修に参加する機会をどのように保証していますか。【19 一部】



その他の回答

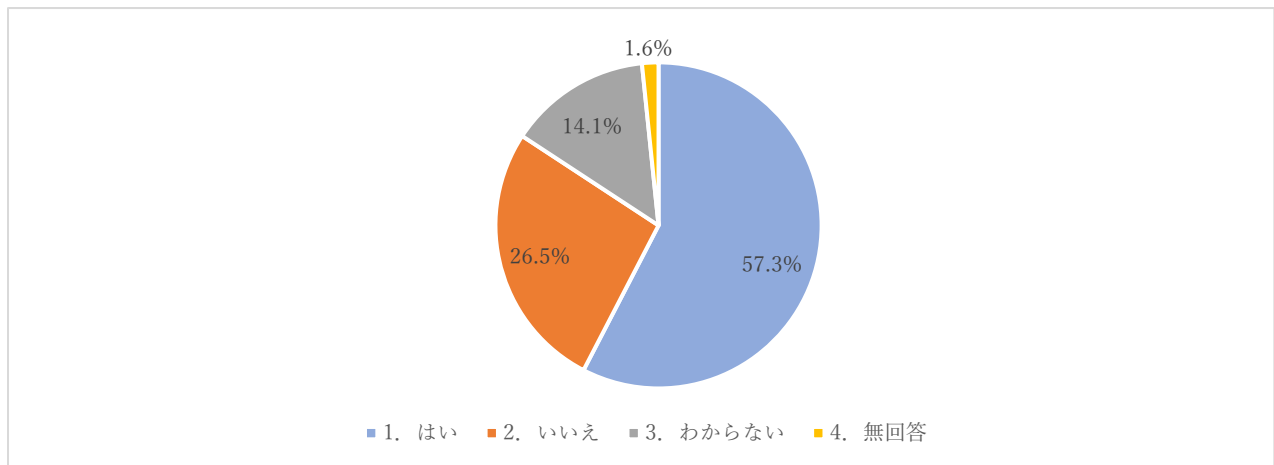
- ・基礎研修Ⅲは業務内、県内で開催されるがん相談員研修は自己研鑽としての参加
- ・正規職員は業務として、非正規職員は自己研鑽として補助はない

4) 貴センターでは、研修の機会を保障された場合にどれくらいの相談員が積極的に参加しますか。

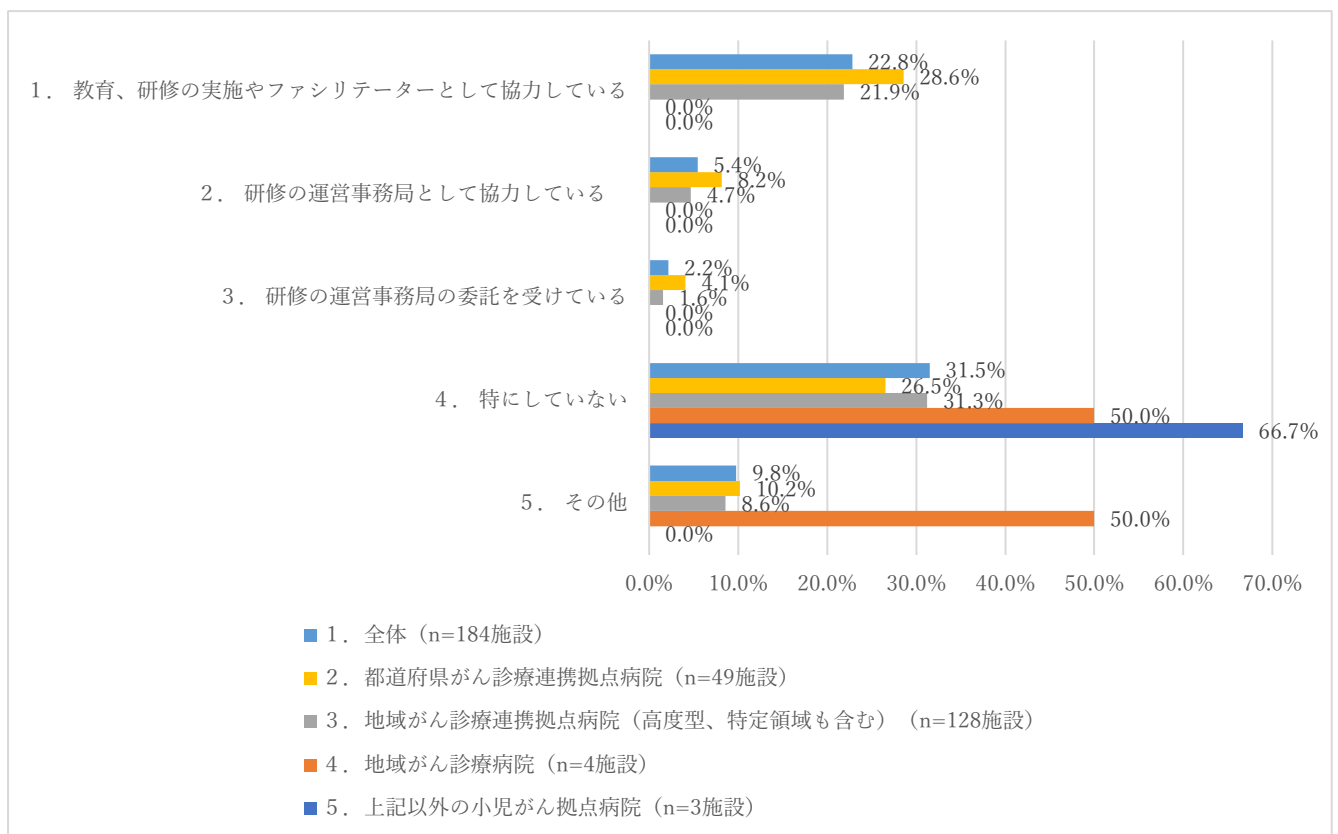


## 6. ピアサポートについて

1) 貴都道府県では都道府県もしくは地域統括相談支援センターなどでピアサポーター研修を提供していますか。(N=184施設)



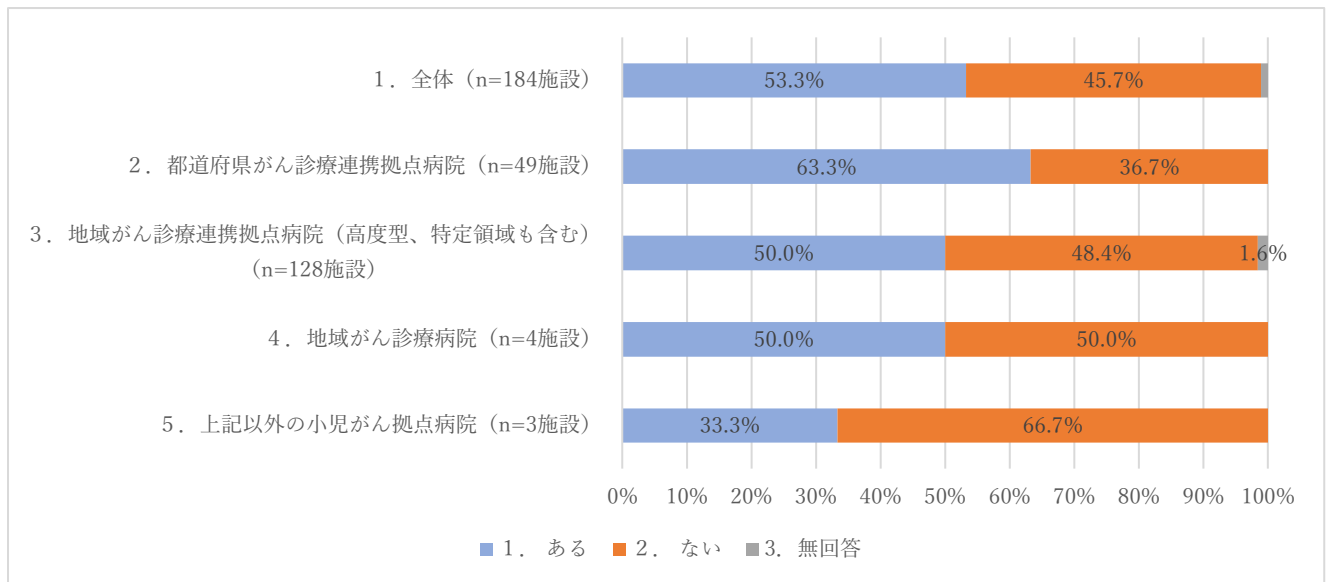
1) -1 1) で「1. はい」と回答した方に対して、貴センター相談員はピアサポーター研修への協力をしていますか。(複数回答)



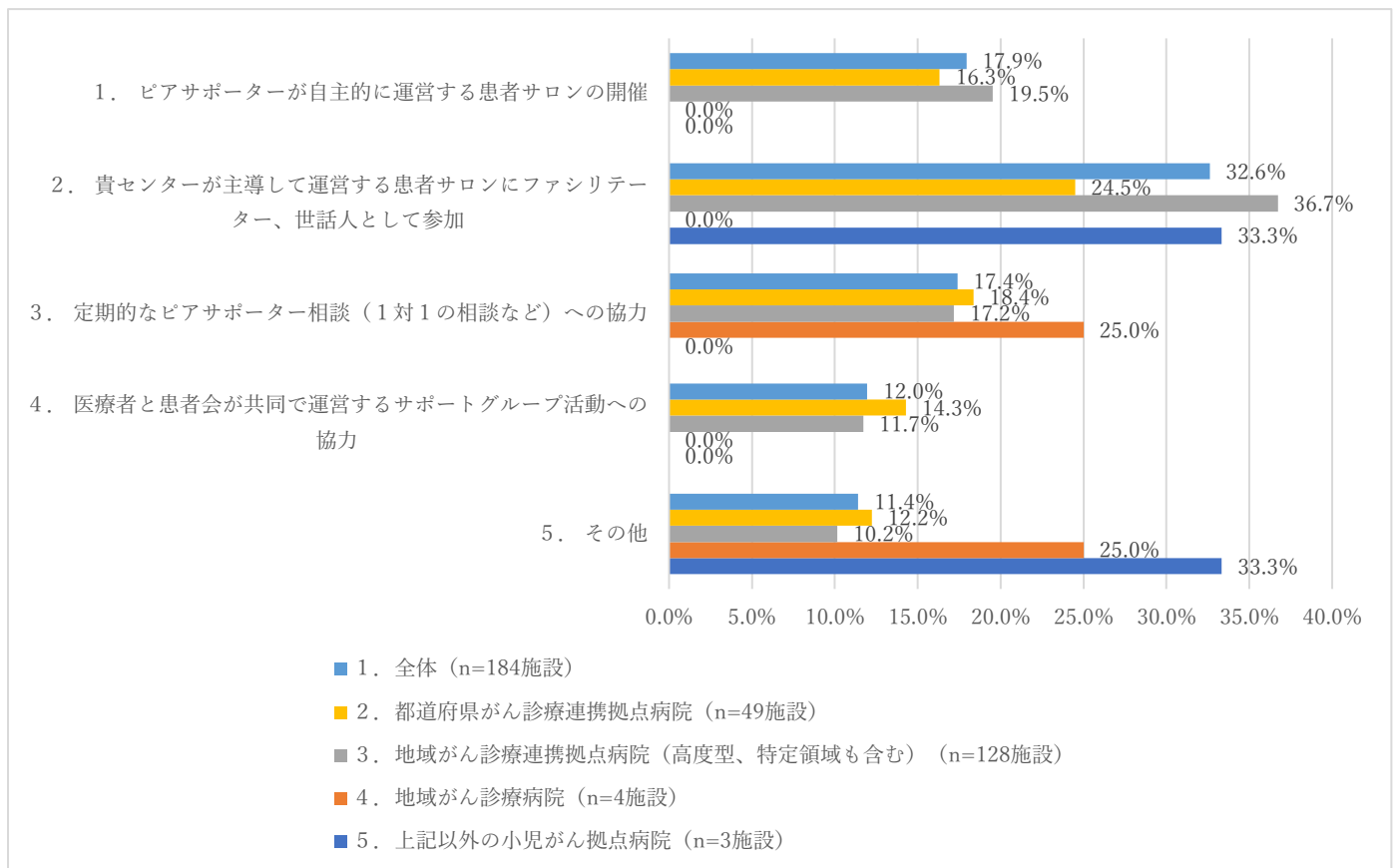
## その他の回答

- ・研修会講師として
- ・ピアサポートに興味のある方に対して、研修の案内など
- ・研修会場の提供

2) 貴センターでは、研修を修了したがんのピアサポーターの受け入れなど、何らかの関わりがありますか。



2) -1 2) で「1. ある」と回答された方に対して、現在研修を修了したピアサポーターは貴センターにおいてどのような役割を果たしていますか。(複数回答)

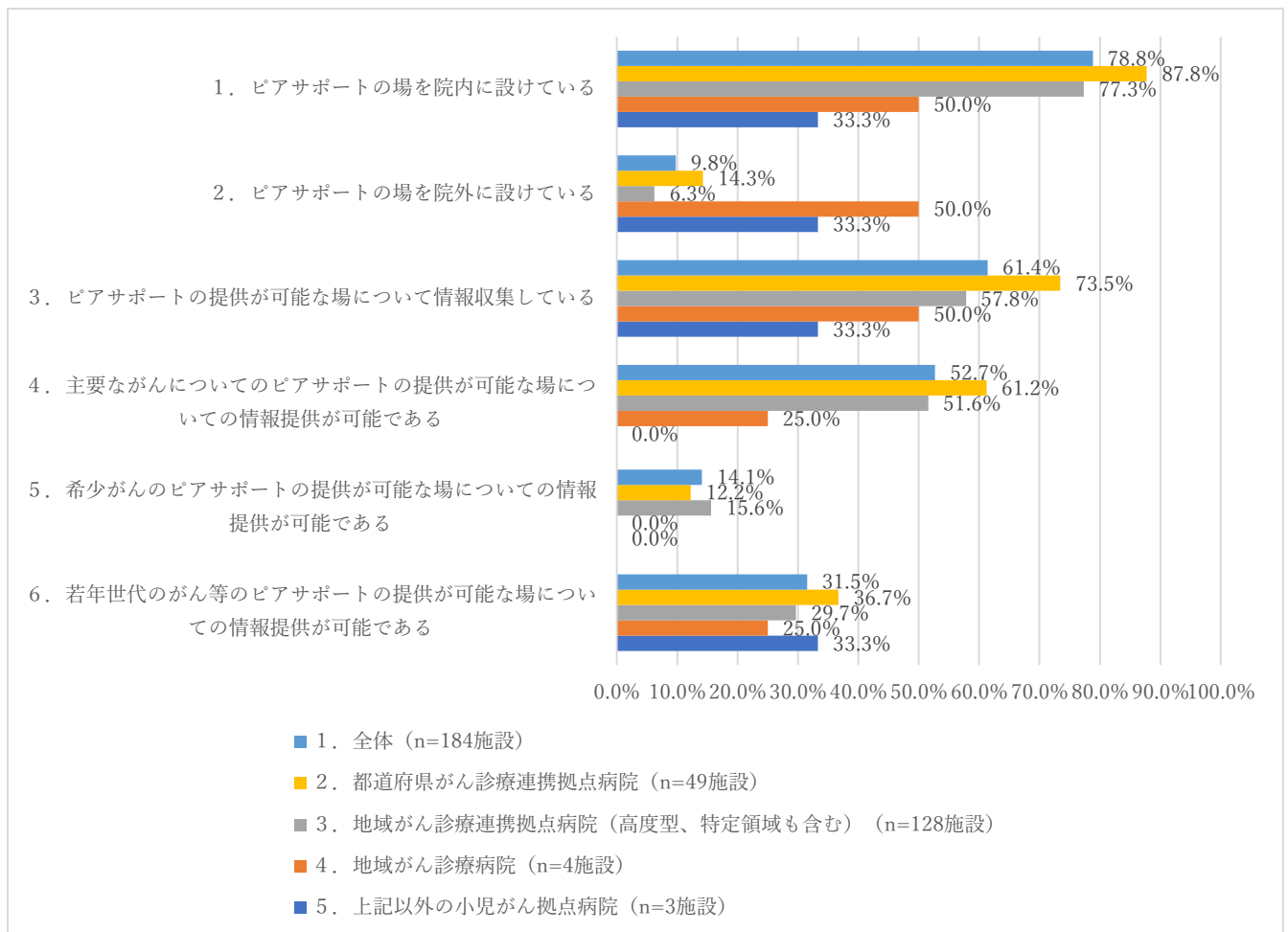


その他の回答

- ・医療者が運営する患者交流会への協力



3) 貴センターではピアサポートの場をつくっている、または提供が可能な場についての情報を提供することができますか。【6】（複数回答）



4) -1 ピアサポートに関連する活動において、うまくいっていることがありましたら教えてください。

(回答数 63 施設)

ピアサポート体制を確保できている	件数
<b>【院内で体制が確保できている】</b> ・がん相談支援センターでピアサポーターを直接雇用し、院内でピアサポーターの養成や派遣が可能となっている	2

ピアサポートの役割発揮ができている	件数
<b>【患者にピアサポートならではの適切な支援が提供できている】</b> ・患者体験を聞きたいという相談がきたときに対応してもらっている ・ピアサポーターのサポートを受けて有害事象のマネジメントができたケースがある	17
<b>【定期的にピアサポートを実施できている】</b> ・定期的に会を実施し、参加者とピアサポーターとの繋がりができている	7
<b>【若年層のピアサポートを実施できている】</b> ・若年層のサロンが当事者を中心に開催されている	4
<b>【研修会で講師として参加してもらっている】</b> ・がんサロンでピアサポーターが講師となり講義をしている	4
<b>【ピアサポーターを複数名配置することで役割がより発揮できる】</b> ・参加者にとって多様な価値観を聞き共感を得る機会となっている	2

ピアサポーターの連携ができている	件数
<b>【地域へ活動を広げている】</b>	1
<b>【お互いが活動方針を理解している】</b> ・活動方針を尊重し共有することによって、円滑に進められている	2
<b>【主体的にピアサポートを実施している】</b> ・少しずつピアサポーター主導に切り替えていき、現在医療者は見守りと相談役となっている ・活動後に活動報告を受ける時間を設けている	5
<b>【密な連携体制を持っている】</b> ・施設側と当事者側で委員を出し合って、運営委員会をつくっている	5
<b>【合同のイベントを開催している】</b> ・連携によるイベントの開催	2
<b>【患者サロンに医療者も関わる】</b> ・患者サロンの中で医療者によるミニレクチャーを実施している	2

ピアサポートが院内にいい影響を与えている	件数
<b>【院内設備の改善に貢献している】</b>	1

・がんサロンから要望を提出し、オストメイト用のトイレを院内に設置した	
【相談支援センターの周知に繋がっている】	2
・ピアサポーターからの紹介で相談に繋がった	

ピアサポーターの養成や体制整備ができている	件数
【院内でピアサポーター研修を実施している】	1
【患者団体連絡協議会と連携している】	1
【県内病院全体で患者サロンを提供できる体制を整えている】	1

その他	件数
【過去の参加者に個別の参加連絡を送ることで参加しやすくする】	1

4) -2 ピアサポートに関連する活動において、課題になっていることがありましたら教えてください。

(回答数 46 施設)

ピアサポーターが足りない	件数
【県がピアサポーターの養成を行っていない】	1
【ピアサポートの担い手がない】 ・活動を主体的に行える人材が不足している ・ピアサポーターになろうとする人がいない	6

ピアサポートの運営に関する課題	件数
【参加者の確保が難しい】 ・メンバー数が減少しており、新たなメンバー確保が難しい ・広報活動は行っているが、参加者が少ない	8
【参加者が話しにくい、人間関係の問題がある】	1
【広報が不足している】	1
【ピアサポーターが偏っている】 ・新規のピアサポーターや AYA 世代のピアサポーターがいない ・世代交代が難しい	7
【安定したピアサポートの提供に苦慮している】 ・ピアサポーターの体調により開催できないことがある	5
【運営の方法が分からない】	2
【ピアサポーターの教育、フォローアップ体制の不足】 ・ピアサポーターが活動する場が提供できていない	4

ピアサポートへの理解不足	件数
【ピアサポート体制の位置づけが不明確】 ・院内ルールとのすり合わせが必要である	2
【医療者からのピアサポートへの理解不足】	1
【ピアサポートの際のサポートに苦慮する】 ・相談にのったピアサポーター自身が不安になりサポートが必要である	3
【ピアサポートの評価に苦慮する】 ・開催を継続することの有用性の評価が難しい	3

その他	件数
【ピアサポートへの研修に赴くことが難しい】	

5) ピアサポート機能が病院外でも自立して行われていくために必要なこと/課題に思っていることがありましたら教えてください。

(回答数 21 施設)

ピアサポーターへのバックアップ体制	件数
<b>【行政によるバックアップ】</b> ・行政主導でピアサポート養成の場をつくること ・積極的な PR が必要	3
<b>【ピアサポーターへの継続的なサポート】</b> ・ピアサポーターのマネジメント部門が必要	6
<b>【資金確保】</b>	1

活動促進のための体制づくり	件数
<b>【各施設で活動するための支援体制づくり】</b> ・場所の確保と運営機能が必要	7

ピアサポーターの育成	件数
<b>【活動を支える主体性のあるピアサポーターの育成】</b> ・活動の中心人物となれるサバイバーが必要	2
<b>【メンバーの育成】</b> いつも同じメンバーになりがちであり、新規開拓が必要	2

(別資料；自由回答の回答一覧)

4) -1 ピアサポートに関連する活動において、うまくいっていることがありましたら教えてください。  
次ページの回答の分類、会分類は下記のカテゴリ番号を指す。

分類	
1	ピアサポート体制を確保できている
	11 院内で体制が確保できている
2	ピアサポートの役割が発揮できている
	21 患者にピアサポートならではの適切な支援が提供できている
	22 定期的なピアサポートを実施できている
	23 若年層のピアサポートを実施できている
	24 研修会で講師として参加してもらっている
	25 ピアサポーターを複数名配置することで役割がより発揮できる
3	ピアサポーターと連携できている
	31 地域へ活動を広げている
	32 お互いが活動方針を理解している
	33 主体的にピアサポートを実施している
	34 密な連携体制をとっている
	35 合同のイベントを開催している
	36 患者サロンに医療者も関わる
4	ピアサポートが院内によい影響を与えている
	41 院内の設備の改善に貢献している
	42 相談支援センターの周知に繋がっている
5	ピアサポートの養成や体制整備ができている
	51 院内でピアサポーター研修を実施している
	52 患者団体連絡協議会と連携している
	53 県内病院全体で患者サロンを提供できる体制を整えている
9	その他
	91 過去の参加者に個別の参加連絡を送ることで参加しやすくする

分類	ピアサポートに関連する活動において、うまくいっていることがありましたら教えてください。
1	ピアサポート体制の確保
11	ピアサポーターを雇用し、がん相談支援センター勤務することで、個別相談対応、サロン運営、ピアサポーターの養成、派遣が可能となった。
11	県からの予算で活動が担保されており、専従の事務職員とピアサポーターを雇用できている。そのため、院内で定期的にピアサポートが実施できている。
2	ピアサポートの役割発揮
21	患者の悩みや不安にピアサポーターが寄り添い支援していただいている。
21	サロンでピアサポーターと医療者が同じ説明をしたとき、ピアサポーターの意見のほうが、自分にもできると感じ行動してみようとする反応がある。
21	乳がん術前やストーマ増設前に手術後の患者体験を聞きたいと相談が来た時に、適切なピアサポーターが相談者に直接会って相談対応に応じてもらっている。それにより、術後の生活イメージが得られたり、治療の意思決定支援へつながっている
21	上記1. サロンは細々とではあるが必要とする方、来てよかったと言っただけのサロンを毎月開催できている。その中で研修を受けていなくとも、それぞれの患者さんがお互いにピアサポートする場面を見たり、仲間づくりの場となっている。それが進行がんならなおさらである。
21	ピアサポーターと相談することで患者の不安が解消するなど一定の効果がある。また、一定数の患者が「月1回語り合いの会に出席することが楽しみである」と話している。
21	がんサロンの時、初めて参加される方にうまく対応してくださっている。
21	ピアサポーターが積極的に開催しており、利用者も多く参加している
21	院内の患者会は、院内外の患者さんを対象としている。対応に苦慮する場合は、看護師が相談対応を実施している。
21	がん体験者の視点での相談対応 主に共感
21	手作りの乳がん術後のバットやケア帽子をがん相談支援センター利用者に提供している。
21	がんサロンのファシリテーターは医療者が担うと相談会のようにがちであったが、ピアサポーターがファシリテーターを担うようになり、患者同士の語りが促進されるようになった。
21	がんサロンは新規患者をサポートタイプを受け入れる雰囲気がある。患者会と当センター共催で研修会を開催している。
21	院内がんサロンに参加していただいていることで、ピアカウンセラー、ファシリテーター的な役割を担っており、各参加者が発言できるよう促していただいている。
21	ピアサポーターのサポートを受けて有害事象のマネジメントができたケースや存在に支えられて治療が完遂できたケース、気持ちがつらい時にサポートを受けて前向きになれたケースなど、ピアという立場で体験を聴き・語る点が医療者にはない強みだと思う。
21	家族としていた参加者がピアサポーターの役割を担い、患者が亡くなった後も継続してサロンに参加し、運営に協力してくれている。
21	院内のがんサロンを協働し運営することで、同病の人と話がしたいなどのニーズに対応できる。
21	複数の患者団体が協力して語りの場としてのがん患者サロンを開催しており、患者にとっては定期的に同じ体験を語ることでできるサポート体制が定着し安心につながっている。担当者はがんサロンの活動を通して自己の役割や成長に気づき、やりがいをもち意欲的に活動をしていただいている。また長年事務局を当院において活動している患者会もピア

	サポートの場として活動が定着している。
22	千葉県内の拠点・地域指定病院でピアサポートのサロンを開催している。年間24回。それぞれに病院の相談員がサポートしている。研修運営にも協力得られる。
22	<がんを語り合う>会を定期的に実施しサポーターと参加者のつながりができている。リレーフォーライフに「がん診療統括部」として参加できている。
22	患者サロン2回/月 乳がん患者会/年
22	サロン参加者を対象とした勉強会を定期的に行っており、参加者が増加している。また勉強会の開催にあたり院内講師の協力が得やすい。
22	がんサロンに専従スタッフ（看護師OB）を配置し、毎日開催している。
22	ピアサポーターの協力でピアサポーター相談会が定期的に行われている。
22	学習会を1回/2か月開催。
23	若年世代のがん等のピアサポートの求めをうけ、2年程度前から院内がんサロンとは別で新規に立ち上げ、県内の部会などでの広報を行い、時に院外や地域からの参加がみられている。
23	年1回、AYA世代がん患者ピアサポートの会を小児がん相談室主導で開催しており、アンケート調査を基にした研究を行った結果、一定の効果が示唆された。
23	若年世代のサロンが、当事者を中心に開催されている。
23	AYAサロンの時にピアサポートの当事者として招いた。
24	当院が主催する患者サロンで、リラクゼーションの活動を行う時に講師として参加して頂き、参加者の支援をして頂いている。参加者は講師の体験を聞くことにより体験的知識を得たり、がんであっても色々な活動が行えるという勇気ももらえ自信に繋がる。講師は自分の体験が他の患者・家族を支援する力になっていることを知り、自信となる。
24	患者サロンにおける広義の意味でのピアサポートはうまくいっている。患者サロンの参加者が固定化しないように、ミニレクチャーを設けて新規の患者が参加しやすい環境を作っている。
24	がんサロンでピアサポーターが講師となり講義を行っていただいている。
24	富山県がん相談総合支援センターがピアサポーターを育成し、統括する部署がある。そこから県内の10拠点病院で活用されている。病院でピアサポーターとして活動することがトレーニングとなり、地域にも貢献できている。
25	がんサロンに複数のサバイバーがピアサポーターとして関与している。個々としては十分な面接技術が無くても、複数のピアサポーターがサロンの場で自身の体験を語ることで、参加者にとっては多様な価値を聞き共感を得る機会になっている。
25	ピアサポーター研修修了者が複数いて、がんサロンの世話人として企画、サロンのファシリテートを積極的に行っている。穏やかな雰囲気の良い会を作っている。
3	ピアサポートとの連携
31	これまで院内のみでピアサポートの場を設けていたが、今年度より場を地域にも広げることを目的に、試験的ではあるが院外でのピアサポートを実施し始めることができた。
32	患者会世話人（ピアサポーター）と活動方針を尊重し共有することにより、院内での活動が円滑に進められる。また職員として新たな患者様に具体的に紹介し、活用していただきやすくなるのが可能になる。
32	看護師資格者のピアサポーターがいるため、院内で活動していただくにあたって、共通理解のもとに活動いただいている。



33	当院で開催のがんサロンに 2018 年度から参加してもらい 2019 年 7 月よりピアサポーターに進行を任せるようにした。初めは自分の経験を役立てたい・何か伝えたいという気持ちが強く感じられたが、回数を重ねることで進行の仕方にも慣れ、聞く姿勢や配慮する気持ちが見られるようになった。
33	サロン開催を病院主導から少しずつピアサポーター主導に数年かけて切り替えていき現在病院サロン担当者は見守りとピアサポーターの相談役となり支援している。年に数回ピアサポーター代表者と情報や意見交換を行い活動をサポートしている。
33	院内でのピアサポーター活動後に当日の活動後に当日の活動報告を受ける時間を設けており、情報共有や対応方法の振り返りの場となっている。
33	患者サロンの運営に主体的に関わっていただいている。
33	ピアサポーターが自立し、ピアサポートの場を構築しようとしている
34	ピアサポーターと密に連携を取り、協力体制を整えている。
34	ピアサポート終了後に、ピアサポーターと患者サポートセンター長で相談内容についての振り返りを行なっている。ピアサポーターにとっての精神的負担軽減につながっている。
34	患者サロンの開催前後にミーティングやメールのやり取りを行い、情報共有を行っている。そのため、患者サロンの開催が円滑に行われていると思う。
34	施設側と当事者側で委員を出し合って運営委員会をつくっている
34	県で養成されたピアサポーター 17 名を受入れている。1 回 2 名体制のため全体の情報共有を目的に年 2 回全体ミーティングを開催し、事業目的の確認や課題を把握している。年 1 回はがんセンター長を交えたランチ会を開催し交流を深めている。
35	院内既存の患者会コアメンバーとの連携によるイベントの開催。
35	県の対がん協会がピアサポーターの養成を行っている。病院から対がん協会にピアサポーターを依頼。患者サロンの司会進行をピアサポーターにお願いしている。
36	多職種スタッフがサロン運営に関わる体制作り（社会福祉士、各認定・専門看護師、CLS など）
36	患者サロンの中で、医療者によるミニレクチャーを実施している。参加者には好評で、ミニレクチャーの内容をみて参加されている。
4	ピアサポートが病院に与えるよい影響
41	がんサロンにて、院内にオストメイト用トイレが無いということが話題となり、病院へがんサロンからの要望として、オストメイト用トイレの設置を求め、実現することができた。
42	ピアサポーターは相談支援センターの PR など、周知活動の協力が得られている。ピアサポーターからの紹介で相談につながるケースも増えている。
42	当センターで開催するお茶会に参加いただくことで、別の場でもピアサポーターさんが患者さんに当センターについての情報提供をしてくれている。
5	ピアサポートの養成や体制整備ができています
51	ピアサポーター研修の必要性を検討していた中、サロン参加者から研修受講の希望あり、『平成 24 年度 厚生労働省委託事業 研修テキスト がんピアサポーター編』を参考に、半日コースのプログラムを作成し相談員が研修をおこなっている。参加者からは、今後もロールプレイを含む研修の機会を設け、学びの場が欲しいと意欲的な希望も聞かれます。

52	県ではがん患者団体連絡協議会を中心にピアサポーター養成、拠点病院等と協働し患者サロンの開催をしている
53	ピアサポート活動は県内の医療機関などが行う、患者サロン全てで活動できる体制にしており、相談員と連携した支援活動ができています。
9	その他
91	過去の参加者に個別に開催案内や年間予定などを送付することで、参加頻度があいっている方も参加しやすくなった印象。
91	患者サロンの実施には、院内でも認識されつつあり、参加者の人数も安定してきている。

4) -2 ピアサポートに関連する活動において、課題になっていることがありましたら教えてください。  
次ページの回答の分類、下位分類は下記のカテゴリ番号を指す。

分類	
1	ピアサポーターが足りない
	11 県がピアサポーターの養成を行っていない
	12 ピアサポーターの担い手がいない
2	ピアサポートの運営に関する問題
	21 参加者の確保が難しい
	22 参加者が話しにくい環境である
	23 広報が不足している
	24 ピアサポーターが偏っている
	25 安定したピアサポートの提供に苦慮している
	26 運営方法が分からない
	27 ピアサポーターの教育、フォローアップ体制の不足
3	ピアサポートへの理解不足
	31 ピアサポーターの位置づけが不明確
	32 医療者からのピアサポートへの理解府毒
	33 ピアサポーターの際のサポートに苦慮する
	34 ピアサポートの評価に苦慮する
9	その他
	91 ピアサポーター研修に赴くことが難しい

分類	ピアサポートに関連する活動において、課題になっていることがありましたら教えてください。
1	ピアサポーターが足りない
11	当県ではピアサポートの要請を行っていないため、がんサロンの運営協力者や訪問を実施してくれるピアサポーターの確保に苦慮している。
12	・ピアサポーターのなり手がいない・新型コロナウイルスの影響で、ピアの方が集う場ばない
12	ピアサポート活動を主体的に行える人材が不足している。
12	ピアサポートになろうとする人が見当たらない。
12	患者会主催の患者サロンにおいてピアサポーター研修を受けたものがおらず患者家族の懇親にとどまっております、主観的な意見の交換になりがちである。
12	自院の中でピアサポーター研修を受けることを希望する方が不在
12	サロン参加者の増減はあるものの、新たなピアサポーターやがんサロン世話人の担い手がおらず、病院スタッフ主導のサロン活動が続いている。※現在は COVID-19 の影響でサロン休止中である。
2	ピアサポートの運営に関する問題
21	患者サロンの案内や広報活動を行っているが、参加人数が少ない
21	院内のがんサロンでは、広報活動にいろいろ工夫をしているが、利用者が少ない。
21	ピアサポートの場である患者会の参加人数も減少傾向であり、活動も縮小されている。
21	患者会、おしゃべりカフェなどのイベントに参加される患者さんが少なく、高齢であるため、がん相談支援センターが事務局になり何とか継続している状態である。今後の患者会・サロン運営について課題がある。
21	参加者が少ない。がんサロンを月 1 回開催しているが、がんサイバーが知らない。院内の医療従事者もがんサロンを知らないものが多い。
21	がんサロンを開催する倍の企画や周知等、人の確保が難しい
21	国や県がどの程度の利用者が発生すると見込んでいるかわからないところではあるが、利用者は少数である。ピアカウンセリングにいたっては開催の継続にどれほど有用性(意味はあると思われる)があるのか評価が難しい(2 回/月; 2 時間/回開催して利用者は年間 10 名程度)
21	患者会のメンバー数が減少しており、新たなメンバー確保が難しい。
22	患者会を毎月行っているが、昔から参加している参加者に引っ張られてしまいそれ以外の参加者が思うように話しを進められないことがある。ファシリテーションしようとするがうまくいかない。
22	患者会において、考えを強く主張し場を仕切る人がいる。アドバイスが負担に思う人もいる。人間関係の問題。
23	ピアサポーターの存在を広報すること。ニーズの有る患者さんとのマッチング。
24	同じメンバーが長期に参加され、卒業のタイミングなどに悩む。平日昼間に参加できる方は偏っており、それ以外の方への支援について。
24	若年層や男性ピアサポーターが少なく、相談者のニーズがあるものの満たせないことがある。他院の状況を確認するなどして乗り切っているが、できれば院内で環境が整えられることが望ましいと感じている。
24	ピアサポーターや参加メンバーのニーズと医師との連携。世代交代。メンバーの様々なニーズや価値観、病状体調メンタル面、人間関係などをすり合わせ、安定した継続を維持することの難しさがある。
24	小児の患者が多く、AYA 世代患者の経験も限られているため、ピアサポートをどのような取り入れていくかが課題である。

24	サロンに参加される方の年齢層が高く、人数も限られているので、若年者の方や同じがんの方との交流を希望される方に対応困難である
24	・ピアサポーターのおられる場所から病院が遠方になるなど、地域性的問題がある
24	新規のピアサポーターやAYA世代のピアサポーターがいない。年1回院内でピアサポーターの研修会を開催しているが、こういった内容が良いのかが難しい。
25	ピアサポーターの体調により、開催できないことがあります
25	ピアサポーターになった方が、様々な事情により活動継続できず、脱退されることが多い
25	がんサロンの代表者の高齢化や体力の問題があり継続可能かどうか。
25	勤務外開催は難しく、院内サロンは平日日中のみ。参加者が限られる傾向。
25	区主催の患者会を支援しているが、患者主体の活動には至っていない。
26	患者と協働しがんサロン運営を検討しているが、運営方法の詳細がわからず都道府県拠点病院のがん相談支援センターから助言をうけながら現在調整中である。
26	サロンのマンネリ化
27	ピアサポーターの研修やフォロー体制の整備
27	院内だけでは、ピアサポーターの研修を開催しても参加者が集まらない。また、研修を修了したピアサポーターの活動の場を提供することが難しい。
27	ピアサポーターの教育体制が課題であると思われます。
27	ピアサポーターが活動する場の提供ができていない
3	ピアサポーターへの理解不足
31	ピアサポーターの位置づけが明確に定められていない。
31	ピアサポーター活動と院内ルールのすり合わせ等が必要と考える。
32	院内には、ピアサポーターからの情報で治療等のつらい経験を悲観的に捉えてしまうのではないかと、ピアサポーターの活用を躊躇する意見あり。実績を積み重ねて評価し、フィードバックが必要と考えている。
33	ピアサポーターのフォローに多くの時間をあてている。患者の相談にのったピアサポーター自身が、これでよかったのだろうかと不安に思うことが多いので、毎回ピアサポート後、相談員とピアサポーターとの面談が必要。
33	どこまで病院が積極的に介入すべきかなど悩むことがある。ピアサポーターの情報でインターネット交流等もあるが、患者さんによっては会って話したい方もおられ、希少がんや若年性のピアとなると数も少なく、希望されるニーズに合っていない場合もある。
34	正確な情報提供ができていないかの把握ができない。
34	ピアカウンセリングにいたっては開催の継続にどれほど有用性(意味はあると思われる)があるのか評価が難しい(2回/月；2時間/回開催して利用者は年間10名程度)
34	県主催の研修会を受講していない方の活動を評価、活用しにくい、院内独自のピアサポーター養成の検討
9	その他
91	ピアサポートとして研修に赴くことが難しい。

5) ピアサポート機能が病院外でも自立して行われていくために必要なこと/課題に思っていることがありましたら教えてください。

次ページの回答の分類、下位分類は下記のカテゴリ番号を指す。

分類	
1	ピアサポーターへのバックアップ体制の構築
	11 行政からのバックアップ
	12 ピアサポーターへの継続的なサポート
	13 資金確保
2	活動促進のための体制づくり
	21 各施設で活動するための支援体制づくり
	22 積極的な広報
3	ピアサポーターの育成
	31 活動を支える主体性のあるピアサポーターの育成
	32 メンバーの育成

分類	ピアサポート機能が病院外でも自立して行われていくために必要なこと/課題に思っていることがありましたら教えてください。
1	ピアサポーターへのバックアップ体制
11	行政主導でのピアサポート養成の場をつくること。そこに拠点病院がコミットし、ともに養成継続、組織化、活動の場の提供を行なうこと。
11	院外では行政などのバックアップも必要ではないかと思えます。
11	行政機関による積極的な広報やPRが必要と思われる。
12	当県では患者会が院外サロンを運営している。病院で患者さんや家族に院外サロンの情報提供を行って利用を促したり、対応に困った場合等に気軽に病院の相談員に連絡をもらったりお互いに相談・情報共有できる関係が大切だと思う。
12	ピアサポーターのマネジメントをしてくれる部門が必要
12	支援をしていく体制
12	事務局が設定が決まらず、実態化が困難な状況
12	支援者側と患者側の中心メンバーが連携し、なおかつ継続的な活動体制をつくること。
12	継続できるサポート
21	ピアサポーターが安心して活動できるために、頼ることができる専門の部署や機関が必要ではないか。
13	資金と人材確保（人材育成）。
2	活動促進のための体制づくり
21	ピアサポーターの養成やピアサポーターが各施設で活動するための体制・支援づくりが整ってない。
21	ピアサポーターが学びやすく、活躍の場が広がればと思う。そういった場が提供できればいいのだが、教育や質の保証含め、組織としての指針や体制が整えられていない。体制が整った場に紹介できるといいが、情報も場も限られていることは課題を感じている。
21	場所の確保と運営機能・正確な情報提供
21	場所の選定と確保、資金や人的支援をどうするか。
21	院内に活動場所が確保されていることと、「がんだと知られたくない」意向の方が多く、院外（街中での）自主的な運営が難しい状況。
21	患者会やサロンの運営をどうするのか・地域の中で、ピアサポーターをどう育てるか
3	ピアサポーターの育成
31	活動の中心人物となれるサバイバーが必要。また、それを支えられるサバイバーやサバイバーの家族も必要である。
31	リーダー的な人材と運営が必要
32	いつも同じメンバーになりがちであり、新規開拓をまずは必要
32	ピアサポーターの育成